

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニュースレター

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER

発行部数 3,000 部

Vol. 23

2015年1月発行

コンサート八尾の音楽家

旧家で JAZZ III

八尾の魅力発信！

八尾を再発見する講座と
写真展

連載コラム

「落穂拾い—今東光の薫風—(十七)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

平成26年度 冬季企画展

むかし

明治 大正 昭和

ちよっと昔の
くらしと道具

2015年
1月5日(月)～3月4日(水)

休館日＝火曜日、1月14日(水)、2月12日(木)
開館時間＝午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
【観覧料】一般200円、高校・大学100円、中学生以下は無料
【主 催】NPO法人HICAL

朝 登 夕 夜

これって いつ使うん？

香 袋 秋 冬

あそび 学校

<関連企画>
ギャラリートーク(展示期間)
▶ 2月11日(祝・水)14:00～
(無料)

八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅

〒581-0084 大阪府八尾市植田1-1-25
TEL:044-992-5311
Eメール: info@kyu-uedakejyutaku.jp
ホームページ: http://kyu-uedakejyutaku.jp/

平成26年度 冬季企画展

「ちよっと昔のくらしと道具」

2015年1月5日(月)～3月4日(水)

※休館日はP15 をご覧ください

Contents

- 4 | コンサート八尾の音楽家
旧家で JAZZ Ⅲ
- 6 | 植松灯籠の日
- 7 | こどもガイド体験講座 2
- 8 | 八尾の魅力発信！
八尾を再発見する講座と写真展
- 10 | 研究の一と：ファイル9「火鉢」
- 11 | 旧家で愉しむ食事会
- 12 | なにわの伝統野菜栽培日記 ㉓
- 13 | 三会所だより(3)
- 14 | コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (十七)」
- 15 | 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

コンサート 旧家で JAZZ Ⅲ

2014年11月16日(日)、旧植田家住宅の主屋で開催された「コンサート 八尾の音楽家」シリーズ「旧家でJAZZ」は、今年度で3回目を迎えた。詳しい内容は、本誌4・5ページに掲載。

(右の写真はリハーサル風景)



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

コンサート 八尾の音楽家



旧家で きゆうか ジャズ JAZZ III



橋田正和(ドラムス)



浅龍(ピアノ、ボーカル)



Satsuki(ボーカル、サクソス)



山内融(ベース)



あさりゆう

バンド

演奏 浅龍 & さつき BAND

11月16日(日)、「コンサート八尾の音楽家
 〓旧家でジャズⅢ〓」が、サクソスの奏でる
 「オーバー・ザ・レインボー(虹の彼方に)」で
 ゆっくりと幕を開けた。今回は八尾市在住の
 ドラム奏者・橋田正和氏をはじめ、夏は河内
 音頭の音頭取り(演奏)もするジャズミュージ
 シャン「浅龍 & Satsuki(さつき)」の両氏と、
 同じく八尾市在住のベース奏者・山内融氏で
 結成された「浅龍 & さつき BAND」が出演。
 そんな八尾に縁のあるメンバーたちによる2
 曲目は、浅龍氏の甘い歌声と軽やかなリズムで
 届けられた「ユー・アー・ザ・サンシャイン・オ
 ブ・マイ・ライフ(君は僕の太陽だ)」。さつき氏
 のサクソスの聴かせ所も多かった。続く「ユー
 ・ド・ビー・ソー・ナイス・トゥ・カム・ホーム・
 トウ」は、アメリカのコール・ポーター作曲の
 ジャズのスタンダードナンバー。歌には人柄
 が出ると言う浅龍氏の
 「しつこい(粘り強い)」
 性格が曲を盛り立てた。
 その盛り上がりを保つ
 たまま、'60年代のヒッ
 ト曲「スモーク・ゲッ
 ツ・イン・ユア・アイズ
 (煙が目にしみる)」が独





特のスローなテンポで演奏された。吸い込まれる様な浅龍氏の歌声に、どんどんと引き込まれていく客席。その後のサービスピ精神が豊富なメンバー紹介も絶好調。「まずはバンドリーダーのドラム橋田正和！八尾の音楽界のドン」「大きなヴァイオリン（ベース）の山内！」「紅一点 関西のジャズミュージシャンで五本の指に入る美人」など、一人ずつをユーモアたっぷりに紹介し、自身はあっさり「浅龍です。相撲取りみたいでしょ」と一言のみ。音楽だけでなくトークも楽しみの一つとなった。

ライブはさつき氏がメインとなり後半戦に突入。映画「酒とバラの日々」から「アワー・ラブ・イズ・ヒア・トゥ・ステイ」がタイトルに如くゴージャスに演奏された。結婚式などによく演奏されるこのことだが、実



浅龍氏の甘い歌声にうっとり

は別れの曲だという。続く「イン・ア・センチメンタル・ムード」も、心地のよい間がたっぷりと使われ、「天国にいる気分」にさせられた。

次は一旦サックスを置き、さつき氏のボーカルによる2曲を披露。「オン・ア・スロウ・ボート・トゥ・チャイナ」は、

ジャズのスタンダードでもあり、曲の持つ明るさやその内に在る切なさを見事に演じ上げた。また今回の一番人気であった「ローズ」は、音のないミュージシャンであるさつき氏によって手話付きで歌われた。「愛」と「花」の二つの手話を客席にも覚えてもらい、想いの詰まったその静かで美しい音楽的時間と空間を共有した。実はほとんど聞こえずに演奏されていたことに大きな驚きがあったが、歌声が咲かせた花（ローズ）によって会場が愛に包まれたようだった。

ローズを手話付きで歌う Satsuki 氏

さつき氏によって手話付きで歌われた。「愛」と「花」の二つの手話を客席にも覚えてもらい、想いの詰まったその静かで美しい音楽的時間と空間を共有した。実はほとんど聞こえずに演奏されていたことに大きな驚きがあったが、歌声が咲かせた花（ローズ）によって会場が愛に包まれたようだった。



客席のテンションも最高潮に

ライブもいよいよ大詰めを迎え、浅龍氏がテーマ曲とする「オン・ザ・サニー・サイド・オブ・ザ・ストリート（明るい表通りで）」が、ベースのフィーチャーで演奏され、客席の手拍子とともに威勢のよい「前向きさ」をみせた。その勢いのまま最後の曲「ウォーターメロン・マン」が演奏され、メンバーが持ち味を存分に発揮した。そしてライブは終了…とはいかず、勢いも衰えずにアンコールの「スタンドバイ・ミー」を、手拍子とコーラスで会場を巻き込んで演奏。観客との長い掛け合いを楽しみながら、最後は浅龍&さつきによるスキヤットとサックスの再び「じつこい（名残惜しい）」やりとりと「聖者の行進」のアレンジを経て、ようやくエンディングとなった。

全体をリードし、ムードを盛り上げた朝龍&さつき両氏のボーカルと演奏をおおらかで熟成された山内氏のベース、終始演奏を支え続ける橋田氏のドラムにこの旧家も同調し、最高のコンサートが削り上げられた。

（学芸員 安藤亮）



植田家の灯籠に

とうろう

灯りを灯すイベント

灯

籠に灯りが灯された夜間の旧植田家住宅を見学できる「植松灯籠の日」が、八尾市内文化施設無料期間中の十一月八日（土）に開かれました。前回、五月に初めて行なわれ（『植田家だより21号』に掲載）、大変ご好評を頂いたイベントの第二回ということので、内容もより進化しました。

まずは灯籠の中の蝋燭ろうそく。今回は全ての灯籠に異なるサイズの蝋燭を使用していました。が、今回は大きさを統一し、さらには耐熱ガラスの容器に入れたものを使用し、扱いやすく、それでいて十分な明るさを確保できました。また大きな灯籠には二本の蝋燭を入れたり、小さな灯籠には蝋燭型の「LEDライト」も使用しましたが、こちらも明るさとムードも充分でした。

もう一つは灯籠の窓にはめ込む障子の枠を、前回の貼りパネルの切れ端から木製の枠に交

植松灯籠の日

換。灯籠の雰囲気も格段に良くなりました。また灯を灯す箇所を増やしたり、主屋では、座敷から気持ちよく庭の景色が眺められるように静かなBGMを流すなど、こうした些細な変化にはあまり気付いてはもらえませんが、アンケートには「とても雰囲気があったが、アンケートには「とても雰囲気があったて良かった」との声が多く寄せられました。

特筆すべきは、今回新たな試みとして、庭から見える主屋の二階の窓で「影絵」を行なっていました。映し出されたのは「たぬきの糸車」の物語の一場面。「キーカラカラ…」と回転する糸車とそれを見つめるたぬきの姿がなんとも愛らしく、たくさんの人に楽しんでもらえました。一方で、これらを手動で操作していた裏側のスタッフの苦勞も目に浮かびます。

次年度も五月に開催予定の「植松灯籠の日」に、ご家族・ご友人ともに（もちろんお一人でも）ぜひ、お越しください。



↑二階の窓の影絵「たぬきの糸車」



2014.11.8 撮影

こどもガイド 体験講座 2

小学4年生から中学生を対象に、建物の見学をして旧植田家住宅の案内をしてもらう「こどもガイド体験講座2」を12月13日(土)に行ないました。年に2回、夏と冬に実施するこの講座では、毎回違う場所を見学したり、お楽しみみの「昔のくらし体験」では、昔の人がしていた遊びや仕事をいろいろ体験してもらう事ができ、参加者のこどもたちに喜んでもらっています。

参加者が3名集まった8月の「こどもガイド体験講座1」では、真夏の暑い主屋と土蔵の中を探索し、昔のくらしの知恵や道具の使い方を学び、最後にはちよつとだけ涼しい「紙すき体験」を行ないました。いつも参加人数が少ない本講座ですが、今回の「2」では、お馴染み(常連さん)の小学生2名が参加をしてくれました。

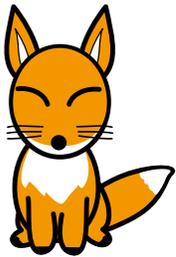
夏とは打って変わり、冬の寒い主屋の見学は少しだけにして、施設の中でも暖房の

効いた展示室と土蔵をメインに案内をしました。いつも遊びに来ていてもまだまだ知らない旧植田家住宅の裏側や楽しい場所をたくさん発見できました。特にふだん見慣れている土蔵の外側(道路から)の景色と土蔵の中から見える外の風景がとても新鮮だったようです。

昔のくらし体験では、パソコンが普及した現代ではちよつと懐かしい「芋版」を使った年賀状用の判子作りに挑戦してもらいました。二人とも芋版は初めてということで、まずは2015年の干支「羊」を描きました。次に彫りの作業では、小学校で木版画の経験がある2人でも、さすがに芋を彫るのに苦戦し、夢中になっていました。なかなか器用に彫刻刀を使いながら黙々と作業は進み、予定の時間もあつという間にすぎたところ、ようやく作品が完成しました。最後には各々の作品を手にご満悦のこどもガイドたちでした。(旧植田家スタッフ)



似てるかな？



きゅうちゃん



「芋彫り」にスタッフも夢中



タイプライターを打ってみました



展示された「印籠」の中身は!!



土蔵から見える景色に興味津々



完成した判子の試し押し



昔のこどもの着物を観察

八尾を 再発見する 講座と写真展

Kyu-Uedake



河内街道

立石街道

十三街道

八尾街道

2014年10月19日(日)～29日(水)

八尾を再発見する講座と写真展

旧植田家住宅では10月19日から29日までの期間中、「八尾の魅力発信」と題した講座と写真展「八尾の四つの街道周辺と近鉄八尾駅前の風景」を開催しました。このイベントは、どちらも平成26年度にオープンした八尾市観光案内所（八尾市観光協会）の協力で行なわれ、同所の拠点である近鉄八尾駅周辺をはじめ、八尾市全体の魅力をいろんな人に発信・発信してもらおうと企画しました。

◎講座

「八尾の魅力発信―八尾の魅力は、人を惹きつける魅力はあるか」

10月25日（土）座敷で行なわれた講座では、京都嵯峨芸術大学教授・八尾市魅力創造戦略アドバイザーの坂上英彦氏をお招きし、「八尾の魅力は、人を惹きつける魅力はあるか」をテーマにおよそ1時間の中で八尾の魅力について語っていただきました。坂上氏は「観光」の視点から、まず始めにその言葉の意味やその中に何があるのかなどを説明された後、多様な観光のスタイルの変遷と今後の観光のあり方について提示さ



座敷で行われた講座の様子



観光から魅力を語る坂上先生

れました。これまでの団体・ツアーなどで忙しく観て回る周遊型、あるいは知っているものをわざわざ見に行く確認観光などはもはや流行らず、現在では個人でゆっくりと滞在して、その土地ならではの新しいものを発見する観光へと変化して来ているということです。いわば、それぞれの地域のそのままの生活を観光客が楽しむ時代になっています。こうした生活観光から見えてくるのは、その土地の豊かさであり、それが地域特有の魅力であるという説明にも納得です。

昨今ツイッターやFacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）による口コミが世界中で主流となっています。個人が情報を発信し、それをまた別の個人が共有し、また情報を発信するということを繰り返



講座終了後、イベント告知とPRをする
八尾市観光協会・事務局長の木村裕美さん

① 八尾市観光案内所

八尾市北本町2-1 ベントプラザ20号
(近鉄八尾駅高架下)
営業 10:00~18:00
<http://www.yaomania.jp/>

して、いつしか情報は大きく広がっていきます。そうなるためには、やはりその根本である魅力「光」(観光はこの光を観ることに大切だといえます。

では八尾にはそのような光となるもの、つまり「人を惹きつける魅力はあるのか」という問いに坂上氏は「あります」と一言。八尾には里山があり、自然だけでなく歴史やグルメ、産業、交通など、どの場所にも観光の要素があります。しかし、こうした生活の豊かさや地域の魅力を作り出すのはそこに住む人たちであり、自分たち自身でその魅力を発見し、発信していかなければなりません。「皆さんそれぞれが八尾市の観光大使です。」との括りの言葉に、参加者ひとり一人が意識付けられました。

◎ 写真展

土蔵2(講座室)では、「八尾の四つの街道周辺と近鉄八尾駅前の風景」と題した写真展が開催されました。本展は、今年度オープンした八尾市観光案内所のオープニングを飾った写真展で、旧植田家住宅の「八尾再発見!映像に見る八尾」という企画において、再び展示されることとなりました。

写真はすべて、八尾市在住のグラフィックデザイナーで八尾市魅力創造戦略アドバイザーでもある牧江良祐氏により、八尾市にある四つの街道(八尾・河内・立石・十三街道)周辺と近鉄八尾駅前の風景で構成されています。一点ずつ自身によるコメントも付され、美しく・楽しく・懐かしい八尾の姿が生き活きと映し出されています。

期間中は子どもからお年寄りまで幅広い世代の人たちが来場し、八尾市の魅力に満たされたこの空間を、各々が想いを馳せながら満喫されていました。ぜひ、みなさんも八尾の魅力を再発見してみてください。(旧植田家住宅 学芸員 安藤亮)



研究 のーと

Investigation
Note



ファイル9

ひぼち

「火鉢」

旧植田家住宅 学芸員

谷口 弘美

ナカノマ(おじいさんの
部屋)に置かれた長火鉢



ヒロシキにある
大きな陶器製の火鉢



今、寒さが厳しい冬に暖をとるためにはストーブやエアコンなどの、電気やガス、石油を使った暖房器具がよく用いられている。昭和のはじめ頃まで、電気やガスなどをエネルギー源とする道具があまりなかった時代、暖房は専ら炭火によるものであった。その道具の一つが「火鉢」である。中に灰を入れ、炭火をおこして手先や身体を温めたり、部屋の輪に足が数本ついた鉄(陶)製の道具(鉄)を置き、そこに鉄瓶を乗せ、湯を沸かしたり、網を置いて餅を焼いたりもした。一般的に火鉢には五徳、灰均(はいならし)、火箸(ひばし)(炭火の調整に使用)を入れておく。また火鉢の素材や形、大きさは様々で、客人を迎えるためやインテリア(室内装飾品)としても使われたそうだ。

今回は、現在の旧植田家住宅でみられる、いくつかの「火鉢」を紹介したい。まず主屋・ヒロシキには陶器製の火鉢が展示されている。直径約六十五cmあり、大勢の人であたることのできる比較的大きなものである。家の者や来客など人の出入りが多い場所で使われたものと思われる。

ナカノマ(おじいさんの部屋)には長火鉢がある。長火鉢は一般的に、煙草や小物を入

れる引出しがついており、座敷や商店の勘定場に据え置き、その家の主人が使ったとされる。長火鉢には炉の周辺に縁をつけた関西型と箱状の関東型があるが、植田家の長火鉢は後者の方である。

やや小振りな松の絵が描かれている陶器製の火鉢も植田家には多くみられ、同種のもので一〇点ある。また、京都の金工・金谷五郎三郎作の銅製の火鉢も同じく複数のこざれていることから、どちらも各部屋に設置したり、あるいは多くの来客時にあわせて各人がそれぞれ使用したことが想像できる。

旧植田家住宅には、今回紹介した以外にも木製、陶器製、金属製などの火鉢が多数のこざれている。時と場所に応じて火鉢を使い分けた植田家の当時の様子をうかがい知ることができる。



陶器製火鉢いろいろ

旧家で愉しむ食事会



11月27日(木)、夜の旧植田家住宅では、限定20名の「旧家で愉しむ食事会」が開催されました。この食事会は、旧植田家の畑で収穫した「なにわの伝統野菜」を使った料理を、植田家に伝わる食器でいただくというイベントです。開館当初から行なっている人気企画で、今年でなんと6回目を迎えました。

まずは食事の用意ができるまで、夜間見学会として、展示室で開催中の「飾るゝ植田家を飾るものたち」展のギャラリートークや建物の見学を行いました。参加者の皆さんはなつかしい道具類や、ライトアップされた庭と建物などをみて、普段味わえない雰囲気存分に楽しんでいました。

さて見学会の後はいよいよ座敷での食事会。この日のためにスタッフが伝統野菜の天王寺蕪、田辺大根、勝間南瓜を愛情たっぷり育ててきました。その野菜を食材に料理をご用意してくださったのが地元料理店「創菜庵ひろなお」さんです。お膳に並べられた田辺大根ステーキ鯛味噌添え、天王寺蕪のおでんの



きのこあんかけ、勝間南瓜とたら白子の茶巾玉子など、どれも手の込んだものばかりで、おいしそうでした。

そして、その料理を引き立てるのが、植田家に伝わる江戸時代後期から明治時代頃に使われた食器です。普段は収蔵品として保存されている食器も、この日は食器本来の役目を果たし、いつもより輝かしく見えました。芸術家で美食家の北大路魯山人の「器は料理の着物」という言葉を改めて実感しました。

次の「二の膳」の準備が整うまで、座敷と今回特別に設えた掛軸の話などをさせていただきました。皆さん興味津々に聞いている様子でした。程なくしてお膳が運ばれ、二の膳も終えて食事会もお開きになると、参加者の皆さんは名残惜しく、時間の許す限り、もう一度建物や掛軸などを見学してその場を後にされました。

夜間見学、豪華な料理、食器、建物とその他など、みなさんそれぞれに愉しんでいただけの食事会となりました。

(旧植田家住宅)

学芸員 谷口弘美



なにわの伝統野菜 栽培日記

No.23



田辺大根フェスタに臨む選手たち

【釜ばあ、敗れたり！ in 田辺大根フェスタ】
納豆パワーが効きすぎたのか、私の愛情が濃すぎたのか、とんでもなく巨大化してしまった田辺大根。形はかなり良いのだが、何せデカ過ぎ、重過ぎで完全に規格外…。結果、当然二冠は逃したものの、「がんばったDE賞」を戴いた。（がんばったと言うより「がんばり過ぎた」が妥当。）

畑メンバーも数名フェスタに参加してくれたが、残念ながら入賞ならず。が、しかし！なんと「これぞ田辺大根DE賞」(大賞)を地元・永畑幼稚園が受賞したのだ。こちらの幼稚園には数年前から畑指導に伺っており、園児と

共に伝統野菜を作ってきた。以前、「かわいいDE賞」を戴いたのだが、以降、力及ばず申し訳なく思っていたので、何とかこれで顔が立ち、釜ばあのうれしい敗退となった。

今回は「がんばったDE賞」という事で大根レシピをお届けしようと思います。受賞とは全く関係ないですが、苦しい時のレシピ頼み(笑)。と、その前に、この『植田家だより』をご愛読の方から釜ばあにコメントを頂き、「ばあ」は可哀そう」との優しくいお心遣いで新しい名前を考えて下さいました。

じゃじゃじゃ〜ん！その名も「**レディー・K・A・M・A**」。なかなかかっちょいい名前です！Tさま、ありがとうございます。名前に負けないよう、今後も美味しいおこげが作れるよう、このK・A・M・A精進して参ります。

一、「大根ラザニア」

ピーラーで薄切りにした大根と市販のミートソースに赤ワインを加えて煮詰めたものを、耐熱皿に交互に敷き詰め、最後にチーズをかけてオーブントースターで焼くだけ！



二、「麻婆大根」

2センチ角に切った大根に片栗粉をまぶし、多めの油で焦げ目がつくまでゆっくり揚げ焼きして一旦取り出す。同じフライパンに生姜・ネギを入れて香りが出るまで炒め、挽き肉を加えて火が通ったら市販のマーボー豆腐の素を入れ、最後に粉山椒をふる。



三、「大根ぎょうざ」

①大根は薄切りにして塩をふり、しばらく置いて水気をとる。
②挽き肉に塩・生姜汁・しょうゆを加え混ぜ、ニラと茹でて水気を絞り、みじん切りにしたキャベツを入れてよく混ぜ合わせる。



③大根の片面に片栗粉をまぶし、②を包む。
④フライパンにごま油を入れ、大根を並べて焼き色がついたらひっくり返して蓋をして蒸し焼きにする。

四、「大根と豚肉の重ね蒸し」

薄切りの大根↓人參↓豚肉↓生姜塗るの順で鍋に重ねていき、一番上に大根が来たら、酒少々を入れ、蓋をして蒸し焼きにする。タレはポン酢とすりごまを混ぜたものを使う。



レディー・K・A・M・A

釜ばあの

なにわの伝統野菜

DE
簡単レシピ



マンジーくん

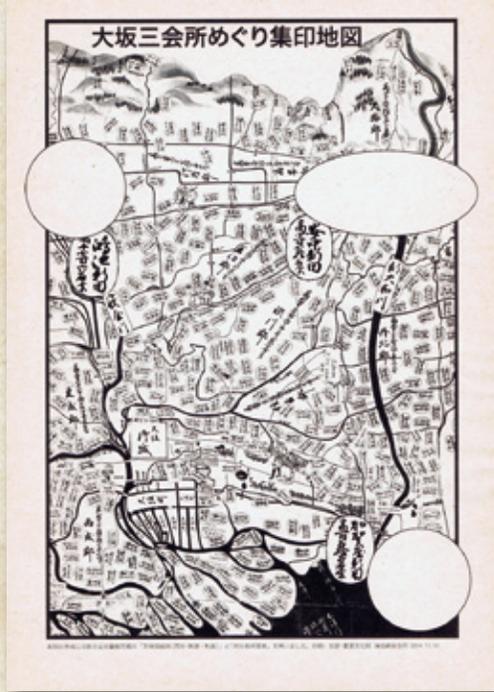
安富士 暁



前回に続き、三会所交流のお話です。各会所跡をつなぐ試みとして、十一月の「関西文化の日」(関西広域連合、関西元気文化圏推進協議会主催)を利用して、各施設の記念スタンプを集めるマップ「大坂三会所めぐり集印地図」が配布されました。作成は鴻池新田会所によるもので、古地図を組み合わせた意匠上に各所のスタンプが押せるようになっていました。また地図には和紙が使用され、見た目も風合いなども「いい感じ」に仕上がっています。

さて、その成果はというと、安中新田会所では「鴻池新田会所」のスタ

三会所だより (3)



大坂三会所めぐり集印地図

ンプが押された地図を持った方がちらほらと見えました。ここで地図を入手して出発された方もあり、残りの会所を巡ったかどうかは分かりません。集印地図は現在も各所にて配布中です。まだの方はぜひ入手して、三会所を巡ってみてください。

(安中新田会所 安藤亮)

◎ 三会所交通案内

● 鴻池新田会所

場 所：東大阪市鴻池元町2-30
 交 通：JR学研都市線「鴻池新田」駅
 下車、南東に徒歩5分
 開 館：10時～16時
 休館日：月曜日、祝日の翌日(土・日除く)
 観覧料：大人300円、小・中学生200円
 お問い合わせ：06-6745-6409(電話)
 06-6744-7498(FAX)

● 加賀屋緑地(加賀屋新田会所)

場 所：住之江区南加賀屋4-8
 交 通：地下鉄「住之江公園」駅下車
 徒歩15分・バス「南加賀屋
 四丁目」下車徒歩5分
 休園日：月曜日、年末年始
 開 園：10時～16時30分
 入場料：無料

加賀屋



鴻池



落穂拾い

I 今東光の董風 I (十六)

文・伊東健

暦年を示す方法は、最近では西暦表記が一般的になってきているようですが、僕は明治・大正・昭和・平成といった元号には郷愁のようなものを感じています。というのも、平成がもう今年で二十七年になるのですが、昭和が二十七年になった年には、ちょうど今東光が八尾に転居してきた直後であり、天台院で新たな新年を迎えた年だったのだと思います。だからです。

平成の二十七年間というのも、多くの震災やテロ事件等があり、決して安穏とできる時勢ではありませんし、パソコンや携帯電話が普及する等、日常生活においても変化の大きい時代だと思えます。けれども、昭和の二十七年間というのはまさに大激動の時代でした。恐慌と称される金融不安、二・二六事件等の軍部主導政治から大戦争、GHQによる占領時代を経て、再度独立を承認されたのが昭和二十六年九月八日サンフランシスコ講和条約調印だったのですから。

まさに同じ年、人生の嵐を生き延びていた五十三歳の東光に比叡山の宗務庁より命を下されたのが、九月四日だと思えば、日本も東光も新たな一步を踏み出したのが昭和二十七年ということになります。

ちなみに、元号が昭和に変わってからの東光は、華やかな大正時代とは好対照をなすように、自ら表舞台から姿を消していきます。出家剃髪し、僧侶となった昭和五年から長い沈黙期間を経て昭和三十二年に「お吟さま」で直木賞を受賞し、再び脚光を浴びるまでの間がなんと二十七年間。数字の偶然というのには時々驚かされます。昭和二十六年には、どのような大晦日で、来る二十七年をどのように迎えたのか、東光は以下のように書いています。

三十一日の大晦日の夜。心経作法を営むからと、前記の人々の他にも何人かお招きした。十二時十分ほど前から素絹、五条をつけた僕は天台流の法義をはじめた。やがて般若心経を読誦した。留ちゃん、おしげさん、家内などがそれに和した。天明三年の紀年銘の入っている破れ半鐘を、栄だんが百八つ突き鳴らす役を買った。はじめはゆっくりと読誦してい

たが、木魚と共に次第に早くなった。栄だんは数珠で数をとっていたが、ぼくぼくぼくと急ピッチに叩き込んでゆく木魚につられて次第に早くなり、仕舞いには猛烈な速力で半鐘を叩きだした。(中略)

百八の煩惱をつき終ったら、栄だんはぐっしより汗をかいていた。

「何ちゆう鐘のつきようや。われ」

「すっかりお住ッさんの木魚の音に釣られたがな。もう、そないなったら、どむならん。百八つやら、二百やら、あるいは千やらわからへん。無我夢中や」

「われのは無茶苦茶や」

そこで住職の僕は言ったもんだ。

「それで好えのや。百八などと数をよむ必要ない。天台院の除夜の鐘はつきりは、百なりと、千なりと、万なりと、好きなように、惚れ惚れと突きなはれ」

と突きなはれ」

『みみずく説法全』第五話除夜

昭和34年2月20日、中央公論社



昭和二十七年を八尾のまちでほればれと迎え、新たな一步を踏み出した東光のこの挿話が、僕は好きでたまりません。

【2015年2月～4月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

展示

◎1月5日(月)～3月4日(水)
企画展「ちょっと昔のくらしと道具」

◎3月7日(土)～4月26日(日)
企画展「八尾のまちなみ」

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

企画

(詳しくはお問い合わせください)

◎2月
1日(日) 連続講座「木(き)②」
8日(日) 旧家で楽しむ落語会
11日(祝) ギャラリートーク

◎3月
1日(日) 連続講座「木(き)③まちなみハウスを組み立てよう」
8日(日) 講演会「JR八尾駅とその周辺」
21日(祝) ギャラリートーク

◎4月
12日(日) ぶらりまちあるき



休館日カレンダー

■ = 休館日

□ = イベント開催日

2 February

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3 March

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4 April

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

●開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

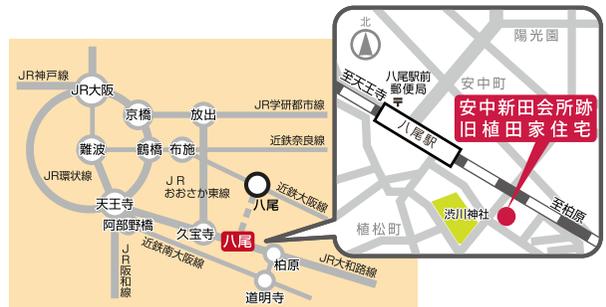
●入館料：一般200円(団体20人以上で100円)
高校・大学生100円(団体50円)
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者
および介助者は無料

●お問い合わせ
〒581-0084 八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分



シーズクリエイトは「印刷事業」と「地域活性の仕組作り」を通じて、物心豊かな“明日”をつくります。



事例 : no.010

ハッピーアースデイ大阪 2015

環境のことを考え、日々の暮らしの中で幸せを感じることをテーマとした環境ムーブメント「アースデイ」。雑貨や食品等を販売するお店が約100店舗集まるマーケットや、体験型ワークショップ、環境に関する展示、学生団体の活動報告など、さまざまなコンテンツが会場を盛り上げます。

NEWS

今回のハッピーアースデイ大阪は、3月14日・15日の2日間、久宝寺緑地 修景広場に開催！

□ <http://www.happy-earthday-osaka.jp/>



リレーコラム

私たちと、八尾の街。

八尾の魅力をもっと知ってもらいたい

日々、八尾の魅力発信に尽力されている八尾市観光協会 事務局長の木村さんにお話を聞きました。

「2013年11月に一般社団法人 八尾市観光協会が設立され、2014年4月には八尾市観光案内所がオープンしました。スタッフは総勢4名。みんな本当にパワフルで、日々、八尾の魅力を発信するため頑張っています。

八尾市には、たくさんの魅力がありますが、それを知ってもらうための仕組みを作るのが観光協会で、その情報を発信する窓口が観光案内所の役割だと考えています。

例えば、ホームページでは、地域の行事やイベント情報を発信していますが、その情報もスタッフが直接現場に足を運び取材、撮影しています。おかげさまで、地域の方とも顔なじみになってきました。この前、案内所に来てくれた方から“ここはいつも明るくて入りやすく、来ると元気になる”って言ってもらえたときは、やって良かったって思いましたね。最近では、八尾市外の方の訪問が増えてきたり、観光案内所はギャラリーを併設していることもあり、毎日たくさんの人で賑わっていますよ。

また裏方的な仕組みを作る役割においては、自らイベントを企画したり、ある事業者様から企画を持ち込んでもらったときに、それに合った協業先を紹介するというようなコーディネーター役も果たしています。それが観光協会として本来の姿かなと思いますし。

八尾って一見“がらが悪い”イメージですけど、本当は、史跡やお寺など歴史的な見所がたくさんあるし、河内音頭やふとん太鼓のような有名なお祭りもある。それを私たちが発信することで、もっとたくさんの人に八尾を楽しんでもらいたいと思います。これは、観光協会の永遠のテーマですね。」

みなさんも、ぜひ観光案内所へ足を運んで、まだまだ知らない八尾の魅力に触れてみてください。



一般社団法人
八尾市観光協会
事務局長
木村 裕美さん

□ 八尾市観光協会 HP
www.yaomania.jp

